

# 食品の有用性・安全性受託試験の最新動向

編集部

かつて受託試験マーケットを牽引してきたトクホ申請のための試験が減少傾向にある中で、健康食品の安全性・有用性の確認のための試験は、規模では小さいものの、数では増え続けているようだ。効能表示はできないまでも、何らかのエビデンスがないともの売れない時代になっていることは確かで、実需に対応した、美容アンチエイジングや体脂肪低減・ダイエット、膝関節などの試験は、差別化を目指す企業の需要もあり活発のようだ。トクホはピーク時より新規申請数が少なくなったとはいえ、現在わが国唯一のヘルスクレーム制度であることに変わりなく、これまで許可された製品の更新のための追加試験需要も出てきている。海外では欧米はもとより、韓国や中国でも新たなヘルスクレーム制度が動き出しており、わが国でも新たな法制化が待たれるところだ。本稿では機能性食品、健康食品で求められるエビデンスについて考えていく。

## ■2012年トクホ市場の現状

2012年のトクホ市場は前年比4%増の5,800億円となった(図1)。昨年1年間のトクホ許可件数は一昨年を下回る45品目となったが、『キリンメッツコーラ』を筆頭に炭酸トクホ飲料がヒットし、市場全体

の底上げに大きく貢献。ここ数年低迷するトクホ市場に明るい話題を提供した。その他の商品でも「トクホ+a」を差別化に売上が伸長したものもある。また、肌対応の新規ヘルスクレーム申請などもあり、トクホ市場が再注目されている。

トクホの昨年末までの許可件数は

1,024品目。保健用途別にみた構成比では、整腸関連が35%でトップ。次いで血糖値14%、コレステロール13%、血圧、中性脂肪・体脂肪が11%と続く。しかし、ここ数年の許可件数は減少しており、2011年は56品目、2012年の許可件数は45品目にとどまった(図2)。また、